

プール育苗の水位の違いがばか苗病発生に与える影響

The effect of different water levels in a flooded nursery on the occurrence rice seedlings infected with *Gibberera fujikuroi*

宮野法近¹

1) 新潟総農研作物セ

今回プール育苗において水位が異なる管理下でイネばか苗病の発生が異なるかどうか検討した。「こしいぶき」の種子にイネばか苗病菌を減圧接種した伝染源を作成し、播種量の30%を健全籾に混合する接種区と、その種子を化学農薬で処理したものを全量播種する防除区を設定した。育苗箱の1/10サイズの容器に乾籾15g播種し、出芽後プール育苗で管理した。1回目の試験では覆土までの水位とする深水区和容器の1/3程度にする浅水区を設定した。温室での加温区、無加温区、屋外管理区を設定した。接種区は加温区の深水区で最も発病苗率が高くなり地温も最も高かった。屋外区の浅水区が最も発病苗率が低くなった。防除区はどの区もほとんど発病しなかった。2回目の試験は無加温で覆土の上までの水位とする高水位区と覆土までの中水位区、容器の1/3程度までの低水位区とし、接種区と防除区を設定した。接種区は中水位区の発病苗率が最も高く、次いで高水位区、低水位区となった。防除区はいずれの水位も発病はほとんど見られなかった。2回目の試験における接種区では地温が高いほど発病が多くなると予想されたが、高水位区の地温は中水位区より高かったがばか苗病発病苗率は中水位区より少なくなり、これまでの報告と一致した。ばか苗の発病と水位もしくは地温との関係についてはさらに検討する必要があると考えられた。